



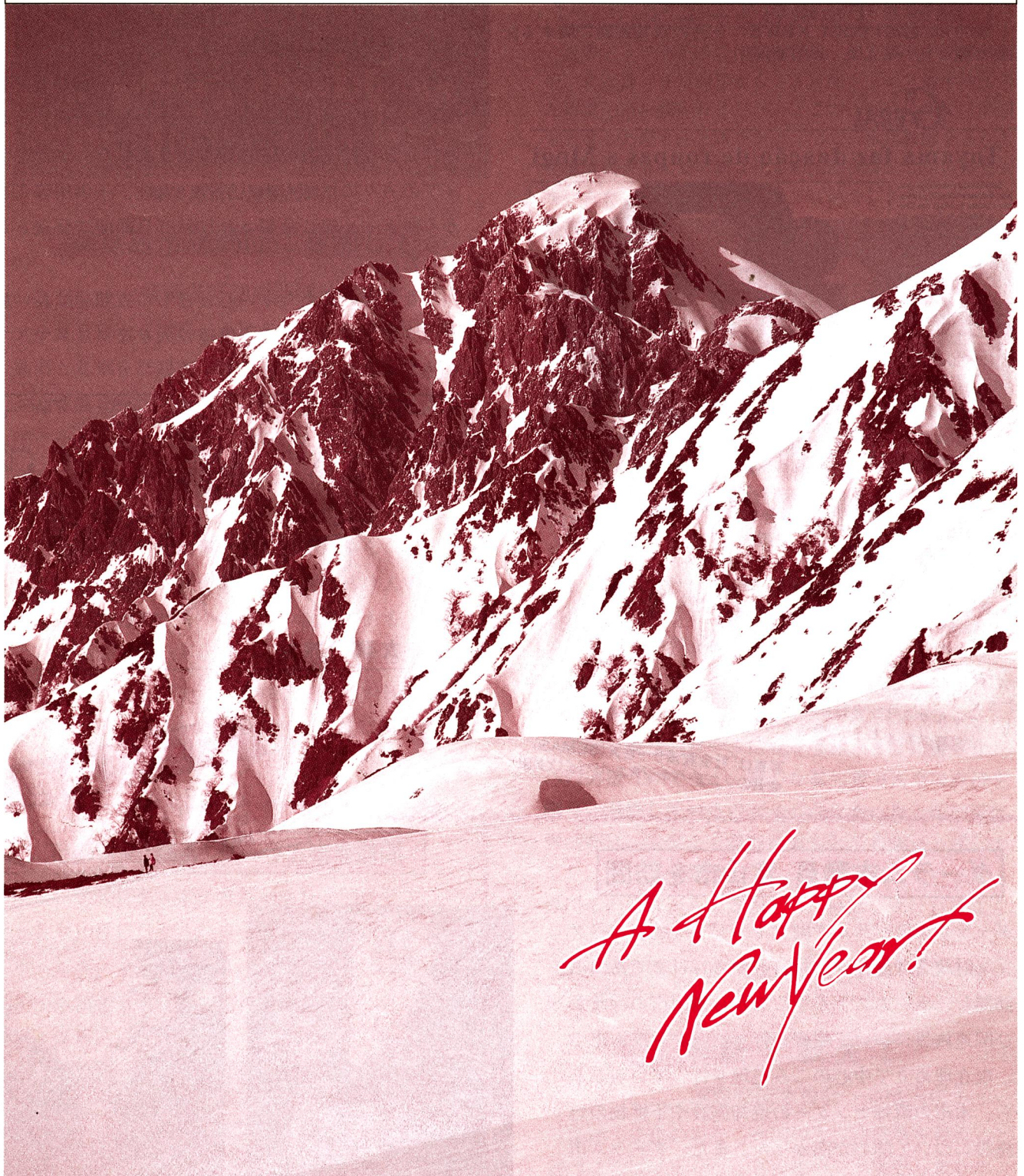
T C A

— NEWS —

Vol. 3 新年号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930 富山市丸の内1丁目4番50号
富山市国際交流センター(市図書館1階)内
TEL (0764) 42-1109 FAX (0764) 42-3807
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



ボランティアで育てよう 富山市民国際交流協会

モジ・ダス・クルーゼス市

〔ブラジル連邦共和国〕
MOGI DAS CRUZES
姉妹都市提携調印の日
1979 (昭和54) 年11月8日

モジ市民 よろこびの声 第一報

地方紙(週間)MOGI NEWSに今回の衣類寄贈に関する記事が載せられました。(以下略訳)

GERAL

Toyama faz doação de roupas a Mogi

Sensibilizada com os problemas enfrentados pela população carente de Mogi das Cruzes, a cidade de Toyama, no Japão, atendeu a um pedido de ajuda da Prefeitura local e enviou um lote de 93.129 peças de roupas semi-novas, que devem chegar ao município nas próximas semanas. Toyama é considerada cidade-irmã de Mogi e diversas outras vezes já enviou ajuda para cá. Desta vez, por iniciativa do prefeito Masahashi Shiochi, com apoio da Associação de Intercâmbio Internacional do Povo de Toyama e aprovação da Câmara Municipal, estão sendo enviadas roupas para homens, mulheres e crianças, que serão vendidas em bazar a ser montado no salão do Bunkyo pelo Serviço Municipal de Assistência Social (SEMAS). A renda será



富山、衣類をモジに寄贈

富山の援助懇請に応じて日本の富山市から中古衣類が数週間のうちに到着する。富山市は今までも何回も当市に援助を差し延べた。今回は正橋正一市長のイニシアティブで富山市民国際交流協会の支援と市議会の承認を得て送られて来る。衣類は「SEMAS」によりバザーで販売され、収益は貧困市民への救済プロジェクトの実施にあてられる。

- ・貧困者用収容施設の建設(2棟)
- ・市民統合と社会行動プロジェクトの実施
- ・ガエルダミリンを増やすこと
- ・路上で生活する児童はいなくなり他の運動、行動を学ぶチャンスもできる——と……。

注：ガエルダミリンとは困窮者の子供に店番、ポーター、簡単な手作業等の職を与え、働きながら義務教育も受けさせる制度。

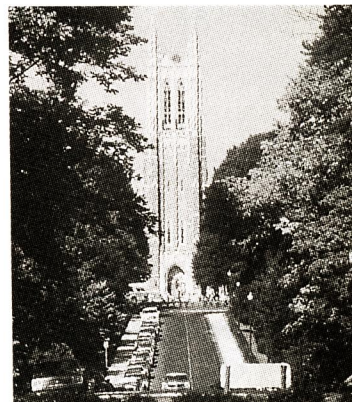
写真は「社会救済サービス(SEMAS)」会長のソニア・ベネジアニ・リベイロ女史

ダーラム市職員、富山市を訪問

ダーラム市のベサイア副マネージャー並びにペダーソン財政管理部長が11月11日から17日まで富山市を訪問し、ホームステイをしながら富山市の行政および関連施設について視察を行った。ダーラム市では、現在埋め立て中心のごみ処理を行っていることから、本市の清掃センターの焼却施設や不燃物の処理施設について関心が高かった。また、ダーラム市の大型スーパーではお客が買い物袋を持参すれば割引制度もあるなど市民の自然環境やリサイクルについての関心も高いとのことであった。



ダーラム町並



デューク大学

姉妹友好

ブラジルへ善意の旅

平成5年春、姉妹都市モジ・ダス・クルーゼス市から富山市へ援助協力の懇請がありました。富山市から設立されたばかりの当協会の事業として協力できないかと依頼がありました。

そして、8月から「家庭で眠っている衣類をブラジルへ送りませんか」のキャンペーンを展開し、おかげさまで約9万3千点が集まりました。ボランティアの方々の活躍もあり男性、女性、子供用等こまかく段ボール箱に分類され10月25日船便で発送されました。

みなさんのあたたかい心とともに衣類達は長い旅をつづけてブラジルの子供達の大きなクリスマスプレゼントになったことでしょう。



ダーラム市

〔アメリカ合衆国〕
DURHAM
姉妹都市提携調印の日
1989 (平成元) 年6月13日

都市往来



秦皇島市山海関前にて

秦皇島市訪問団に参加して

経済友好訪問団団員 山本正夫さん

9月7日から14日にかけて7泊8日で中国の秦皇島市と北京を訪問する機会を得たが、大変快適で且つ有意義な旅行であった。印象を述べると、まず中国が予想を超えて豊かであることとその熱烈な歓迎ぶりである。深い感銘を覚えた。次に「北京秋天」である。連日の快晴であったが、その空の青をバックに故宮の瓦屋根の黄と壁の赤が見事なコントラストをなし、天壇の瓦の紫が空の青に溶け入るようであった。死ぬ前に今一度見たい風景である。今一つ大いに興味を引いたのは、中国人にハゲと白髪がないということである。最後まで得心の行く解説はなかったが、通弁のカク氏の言葉が耳に残った。「中国人は人生を楽しんでいますから」

富山市の教師・職員 ダーラム市を訪問

富山市科学文化センター倉谷副館長を団長とする一行8名が10月11日から24日までダーラム市を訪問し、ホームステイをしながら小・中学校やノースカロライナ生物科学博物館や市役所等を見学したりして交流を深めた。

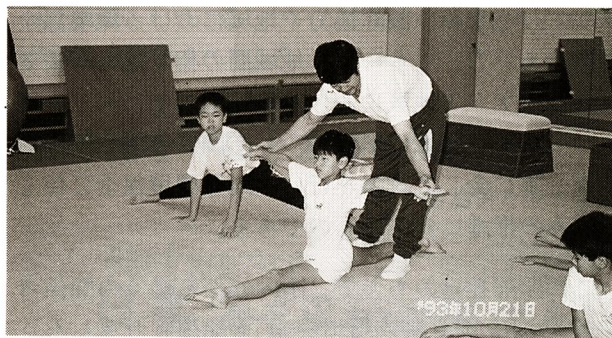


秦皇島市

〔中華人民共和国〕
QINHUANGDAO
友好都市締結調印の日
1981（昭和56）年5月7日

2000年国体に向けて、 ジュニア体操選手を特訓

世界トップクラスの体操指導員 趙友輝（中国秦皇島市）さんは、9月20日から3ヵ月間ジュニア選手強化のため富山市に招かれました。ここで、12月に中国に帰国されました趙さんとボランティアで日本語教師をされた高橋実代子さんから異文化での国際交流について感想文をいただきましたので要約してご紹介します。



思い出の富山

趙 友輝さん

10月3日、私は山室校下の運動会に招かれて出席した。年寄りから子供まで大変沢山の人が来て、お祭りのようでした。開会式や、カラフルなトレーニング・ウェア、ブラスバンドの演奏など、小型オリンピックのように見えた。

多彩な競技内容や、活発な参加、そして優秀な人への応援だけでなく、熱心な参加者みんなに声援を贈り、激励しているのがスバラシかった。市民の体育活動は、大変よく参加意識もとても強いと感じました。そして運動技術のレベルアップについては、専門家のこれからの課題として検討しなければならないことと思いました。

終りに勤勉で善良な富山市民の健康・長寿と幸せをお祈り致します。

日本語を教えて

国際交流委員会 高橋実代子さん

生活・文化の異なる外国の方に、言葉を教えると言うことは「そんなに甘くない」と実感しました。3ヵ月間で趙さんと日本語で意思の疎通ができるようになり、少なからず国際交流の一助となったことがうれしく思います。

富山で国際シンポ

「国際協力フォーラムinとやま」開催
(10月9日 県民会館)

「とやま国際環境会議」開催

(10月26日～27日 名鉄トヤマホテル)

地球環境を保全し、持続可能な開発を実現していくことは、今や人類共通の重要な課題となっており、国や立場の違いを越えた協力が求められている。

この会議は、昨年6月にリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議」(地球サミット)のフォローアップの一環として、今後21世紀に向けて、地球的規模の環境問題を世界の各国がグローバル・パートナーシップのもとで協力し、解決していくため、国際協力や地域における環境保全活動のあり方、さらには、地域間の相互協力が重要となる東アジア地域における酸性雨のモニタリングネットワーク構想の形成について関係各国や関係機関が一堂に会して討議を行い、地球環境保全に係る取組みの推進に資するものである。

この開催趣旨のもとで、国内外から多くの関係者を迎えて「とやま国際環境会議」が開催されました。



当協会、センター展示場にぎわう

フォスター・チャイルド展

(10月17日～21日 当センター展示場)



「発展途上国の子供たちに幸せを」——フォスター・プランは、国連経済社会理事会によって公認・登録された特定の宗教・政治に関係のない、民間で非営利の国際援助機関です。

主旨 一匹の魚を贈るよりも魚を獲ること
や育てる方法を教えること

フォスター・プランの援助方法は4種類あります。

特に中心になるのが、フォスター・ペアレントとしての援助です。——特定の子供を紹介し、その子供の家族、地域までを援助し、自立に導くというものです。このほか、一般寄付、特別寄付、メモリアルファンド等の援助方法があります。

多くの方の、理解と賛同を願っております。



「今、地方発信の国際協力」をテーマに、元カンボジア選挙監視要員の小川秀樹さんの「カンボジアPKO 日本の国際貢献」と題した基調講演のあとNGO(非政府組織)、ODA(政府開発援助)双方の立場からパネルディスカッションを、また、電光掲示板を使った参加者の意識調査も行われ、国際協力の必要性は、大半が強く認識していると回答された。

「スイス・インフォメーションデー・イン・トヤマ」

(11月13日～20日 当センター展示場)

～スイスおよび「日本の中のスイス」の紹介～

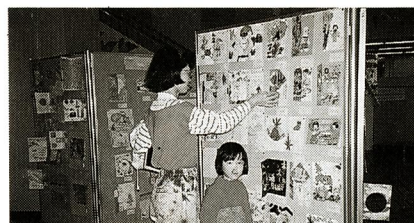
世界中で活躍しているスイスの、日本との貿易・経済関係の歴史と現状、主な産業(企業・製品)等を紹介して、両国の友好と相互理解を促進する目的で開催されました。(講演及びレセプションは県民会館に於いて行われました。)



第四回国際児童 クリスマスカード・デザインコンテスト

(10月25日～31日 当センター展示場)

日本・香港・台湾・中国の子供たちの
X'mas メッセージがいっぱい!!



国際交流の輪、大きく広がる

米国経済視察団 (10月10日～20日)

ニューヨーク・ダーラム・アトランタ

ロサンゼルス・ポートランド方面

富山商工会議所では、当協会会長でもある久保田照雄会頭を団長とする一行19名が、米国内諸産業の現状について視察し、併せて富山県・富山市とそれぞれ友好関係にあるオレゴン州、ノースカロライナ州ダーラム市を訪れ親善を深めました。ダーラム市では、市長主催の歓迎晩餐会が催され、友好親善はより深まりました。



富山市婦人・青年の翼 親善深め元気に帰国

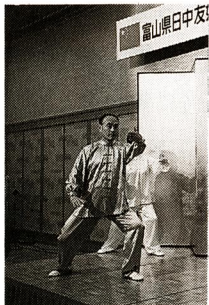
10月15日から2週間、シンガポール・インドネシア・オーストラリアの三カ国を訪問した一行は、感激、感動の多くの思い出とともに、ふだん着のあたたかい国際交流の輪を大きく広げました。



富山県日中友好協会 創立40周年講演会・祝賀会

(10月6日 名鉄トヤマホテル)

元駐中国大使 中江要介氏の「世界の中の日本と中国」の講演や、太極拳等で祝賀会も盛会でした。



(10月8日 県民会館)

県青年海外協力隊帰国報告会



中国浙江省科技幹部訓練センターで2年4ヶ月間、日本語教師として活動していた富山市の松浦とも子さんが、体験等を発表されました。

日本海を平和と友情の海に！

(10月30日 自治労とやま会館)



日本・ロシア協会富山県支部は、在日ロシア連邦大使館三等書記官 ユーリM・ガルキンさんや富山港に寄港中のロシア船員の皆さんと、ギターの演奏でロシア語や日本語で歌い合う、歌声レセプションを楽しみました。

日韓友好調印

(10月18日 ボルファートとやま)



慶尚南道韓日親善協会と富山県日韓親善協会との友好提携調印式が行われました。

国内研修 報告

(財)大垣国際交流協会へ研修旅行



大垣国際交流協会支部の発表

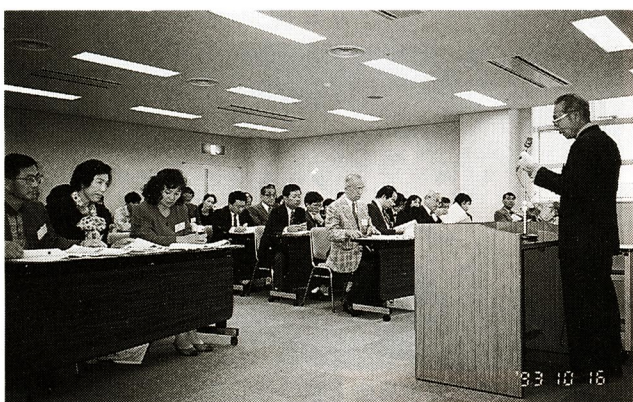
研修旅行を企画して

総務企画委員会委員長 牧野新一

研修はまず近隣の先進的な活動に接することとし、5年前にスタートし、市民レベルで活発な国際交流を行っている財団法人大垣国際交流協会を訪れた。10月16日から2日間、19名の参加で、大垣スイトピアセンターで開かれた。

まず大垣市山本次能教育長の「ボランティアのころ」と題する問題提起の講演は、人間の価値と足のウラにたとえられる謙虚な精神とのつながりについて話され、ユーモアな語りは一同の笑いを誘った。また、協会野田局長は、国際化時代にふさわしい人づくりと活力のある街づくりに取り組んでいることを強調された。続いてお互いの各部会についてそれぞれ紹介し、相互に熱心に情報を交換し、今後の活動について話し合った。

このたびの研修で、いろいろと学びえた交流活動の事例などを各委員会にもちかえって、検討し実践に移すこととし、有意義な研修であった。



当協会委員会の発表

研修旅行に参加して

総務企画委員 澤口悦子さん

この度の大垣市への研修は私にとって、全てが初めての体験で期待と少し不安を抱いて参加しました。スイトピアセンターという可憐な名称の近代的な建物の中に大垣協会は設置されており、一歩踏み入れた時から羨望の念を感じてしまいました。

含蓄ある教育長さんの講演、相互の活動報告等について交流会会場へと移動。大垣協会の皆さまの暖かい拍手に迎えられて、緊張しながらの入場でした。



交流交歓のひととき

各テーブルには手作りのお菓子やサンドイッチ等がきれいにセットされ、コスモスやりんどう等季節の花が活けられ、心からの歓迎が伝わってくる at home な雰囲気が会場に満ちていました。早速、お菓子やお花についての質問から始まり会話の輪が広がって行きます。ホームステイをした子から届いた材料で作って下さったインドネシア風ポテトチップス、少し独特の臭いがするのですが、ホストとその生徒のことを思い、未知の国に思いを馳せ、味わわせていただきました。お互いの体験談や自分たちの街のことなど熱のこもった会話に夢中になっている間に時間が経ち、とても有意義なひとときでした。

中には100人ものホームステイを引き受け、そして彼らを訪ねて1か月間も米国を回ったという人、又一年間の長期ステイを積極的に行っている人等、本当に驚いてしまいました。

とにかく女性がすごく頑張っている、そんなパワーを強く感じた交流会でした。

発足5年目で充実した、活動的な大垣協会に大いに刺激を受けると同時に、歩み出して間もない当協会にとっても力強い励みになったように思います。

富山市民国際交流協会 委員会活動報告

第2回

総務企画委員会

今回は、協会の運営の中核的役割の大きい、総務企画委員会をご紹介します。

ステキな企画を期待しましょう。

総務企画委員会委員長 牧野新一

市民レベルの国際交流を目指して、次の事業を進めてきました。

1. 「国際交流担い手シンポジウム in 富山」の開催

当協会設立記念事業として、7月31日から2日間、富山市民プラザと高志会館で国際交流の多くの分野で活躍されている人々が全国から参加し、意見交換を通して「担い手人づくり」の動機づけとしての成果をあげました。

2. 大垣国際交流協会への研修旅行

他の地区での活動状況を知ることで一段と私達の活動を向上させる目的で、10月16日から2日間、研修旅行を行いました。今後とも国内研修旅行を

企画しますので多くの方々の参加を期待します。

3. 国外研修等のアンケートの実施

国外研修を一層有意義なものと考え、10月に会員の皆さんにアンケートを実施しました。

結果は下欄に掲載してあります。

4. 日常会話講座の開設

現在は「中国語」「日本語」の語学講座を開催しております。

なお、国際交流の輪を広げるため、会員の募集をしていますので勧誘方お願いします。

会員加入申込書は当協会事務局へ

国外研修についてのアンケート結果

問1 どこへ行けばよいですか。 問2 時期はいつ頃が適当ですか。 問3 期間はどれくらいが適当ですか。 問4 研修に対して協会の補助が必要ですか。必要ならばどれくらいが適当と考えますか。
会員350人にアンケートしたところ57人から回答がありました。

問 1		問 2					問 3				問 4				
ど こ へ		時期はいづれ頃(月)					期間はどれくらい(日)				補助(割合)				
		4-6	7-9	10-12	1-3		3-5	6-8	9-12	12-14	1	2	3	5	不要
アメリカ	23	4	10	8	1		1	17	2	3		5	10	4	4
中 国	15	5	3	6	1		10	5			1	6	3	4	1
ブラジル	12	1	1	6	4		3		7	2		3	4	1	4
韓 国	5	1	1	3			2	2	1		2	1	2		
イ ン ド	1				1				1						1
モンゴル	1		1					1					1		
計	57	11	16	23	7		16	25	10	6	3	15	20	9	10

お知らせひろば

委員長会議

11月17日 各委員長及び事務局長が出席し、富山市民国際交流センターにおいて平成6年度の事業等について協議を行いました。

- 今年度の反省をふまえ活発な討議がなされ、平成6年度には環日本海交流祭と国際交流フォーラムを重点事業としたい旨、総務企画委員長より提案があり、了承された。

- 国外研修については実施方法等について検討をしていくということで、意見が一致した。この他、各委員会における事業についても話し合わせ、各委員会においてそれぞれ内容等について検討していく事も確認された。

これらについて、今後理事会等に図っていく事となった。

総務企画委員会

10月7日 国内会員研修の実施について
来年度の事業計画について

11月4日 来年度の事業計画について

姉妹友好都市委員会

10月19日 ダーラム市高校生訪問団受入反省会について
来年度の事業計画について

ボランティア委員会

2月上旬 ボランティア登録者連絡会開催
(予定) (ホームステイ・ビジット・通訳)

国際交流委員会

2月10日 '94春節交歓会
(予定) 中国お正月「春節」を祝い、市内在住中国人と交流

♪もろびと こぞりて……♪♪(12月13日 市民プラザ)

かわいい天使たちによるキャロリング、そして、クリスマスソングにみちびかれて、グッドウィルツリーは、
「いっしょに生きてゆきたい (YMCA国際協力募金)」の
HEARTでデコレーションされました。そして世界の親
友たちとメリー・クリスマス!



「マージョリーとアン」

10月6日から2日間、オレゴンからのゲストを迎えて
わが家でホスト。二人は共に教師でアンは姉妹都市協会の
会長です。私も昨年「婦人の翼」で訪れた所なので話
はつきず、うれしい交流でした。

ボランティア委員会 小池和子さん



国際交流バス・ツアー (10月8日)

中国から体操指導員の趙さん、そして
張さん、インド、ブラジルからの留学生、
それからタイ出身の主婦や大学教授の方々
等と常願寺ハイツや林業普及センター等県内
施設を案内したりして楽しい一日でした。

ボランティア委員会 小池和子さん



国際交流ネットワーク会議 (11月27日 県民会館)

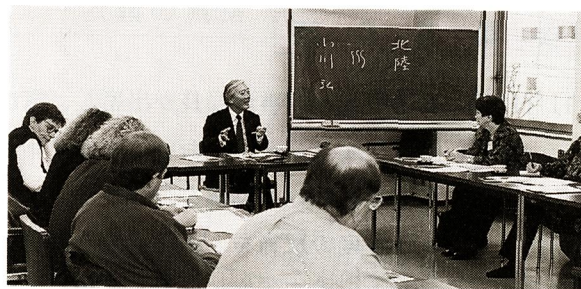
県内の国際交流に携わる、団体、企業、行政が一同に
会し、国際交流活動を進めるうえでの問題点を話し合っ
た。今後、これらの団体等がネットワークを組んで、地
域の国際化をより一層促進することが計画されている。



第14回とやま外国人による日本語

弁論大会 (11月14日 高志会館)

中国・ブラジル・オーストラリア・アメリカ・ス
リランカ・インドネシア・ケニア・ロシア等から、
富山へ来ている留学生ら10人が出場しました。「おた
がいが、もっと、近づくために」という演題で、異
文化での国際交流等について主張した富山工業高専
で機械工学を専攻している、中国出身の陳曉安さん
が最優秀賞に選ばれました。



オクラホマから来富

米国オクラホマ州の高校社会科の教員10名来県。北陸
経済研究所で10月18日県内経済動向について講義を受け
る。

編集後記

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新年を迎えて、世界中で「今年は、いい年でありますように……」と願って、祈りを込めたお祝い事が行われている
ことでしょう。「平和で、明るい希望の年でありますように……」。

先日、ある新聞の一コマで「日本に来て英会話学習等に携わっている欧米人講師は、あまり日本語を覚える気がな
いように思ったので、米国に暮らしたことがある知人に話したところ「彼等にとって日本語なんて取るに足りない言葉、
日本人が欧米人以外の外国人に接する時と同じだよ」と、言われて思いあたることもあった。本当の国際化のために越
えなければならないのは、言葉の壁等だけではないと思う」と、書かれていました。

真の国際化は、「HEART TO HEART」だと、あらためて自らにうなずきました。

では、今年もよい機関紙を送り続けられますように……ご意見、ご感想等、たくさんのご投稿をお待ちしております。

広報委員長 岡田昌代